

平成30年度 第3回藤枝市子ども・子育て会議 議事録

日 時：平成30年10月18日（木） 午後10時30分～午後11時30分

場 所：藤枝市役所 5階 大会議室

出席委員：松永委員長 深澤副委員長 山田委員 作原委員 安藤委員 大石委員 村越委員
小林委員 稲葉委員 伊井委員 松浦委員

**議 事：（1）第2期ふじえだ子ども・子育て支援事業計画策定に伴う市民ニーズ調査について
（資料に基づき事務局が説明）**

委員長：このことについて、質問やご意見がありましたらお願いいたします。

委 員：P4のアンケートの概要、調査対象だが、3歳未満と3歳以上を1,000世帯ずつ抽出するという事だが、全体数はどれくらいになるか。3歳未満と3歳以上のそれぞれについてどうか。

事務局：細かな数字でなくて申し訳ないが、就学前の子どもが全体で7,500人程度で、約半々くらいとの認識である。ただ、0歳児の出生数が減少傾向にあるため、3歳未満が3,000人程度になっていると思われる。

委 員：同じくらいであれば良いと思う。差があると正確な結果が出ないと思ったので聞かせていただいた。

委 員：アンケートに直接関係はないのだが、意見としてお伝えする。一部の児童クラブでは来年度の入会申し込みが始まっているが、新一年生の家庭の就労の変化に合わせ、児童クラブの申し込みが増加している。学校の空き教室を利用して実施している児童クラブもあるが、学校側からは、英語の授業数の増加や研修時間の増加等、教室利用の継続が難しい流れも出ている。児童クラブの入会申し込みが増えている中で、駐車場のことなど、話し合っていくことが今後増えていくのではないかという話もあった。空き教室を利用しているところについては、安定した保育を行っていくには、今後どうなっていくのか、より一層、担当の方と確認し、話し合う場を作らなければならないと思っている。

児童クラブというのは入会は任意であり、それを予測するためのアンケートだと思う。就労や家庭環境の変化などが、入会増加の要因になっていると思う。これは保護者向けのアンケートで、「4年生までいてくれたら安心、5年生までいてくれたら大丈夫」という気持ちが反映されるアンケートだと思う。一方、児童の成長に伴い、子どもに他とのつながりが出来て、子ども本人が「自分は大丈夫」という意思を持ち、子どもの意思で児童クラブをやめたいというケースも有る。児童クラブというのは流動性がある施設であるということもご理解いただければと思う。

事務局：児童クラブについては、入会する児童のニーズがつかみづらいところだが、それらをつかむための今回の調査である。一方、児童課だけでなく学校との調整も必要であり、問題共有をしながら進めていきたい。

委 員：児童クラブについて、前は満足度の項目があったが、今回無しにしたのはなぜか。

事務局：今回は、満足度についてより具体的な所を聞きたいため、数字で聞く形はとらなかった。

委 員：P7問2の地区の関連だが、自治会大洲支部の中に県営青洲団地がある。県営青洲団地としてひとつの町内会であるが、その中で、子どもの学区が2つに分かれている。6割は住所が忠兵衛だが、一部は前島の飛び地であり、青島小学校へ通っている。住所どおりに学区が分かれています。

るのだと思うが、非常に煩雑に感じている。同じ団地で同じ町内会なのに、一緒に遊んでいた近所の子と小学校が分かれてしまう。改善の余地はあるのか。

事務局：学区については教育委員会が管轄しているので、確認していく。

委員：本アンケートについてはボリュームがあり回答に時間がかかる。子育て中の父母にとってかなりの労力を伴う。回収率を高めるには広報や啓蒙活動をすると思うがどのように行うか。

事務局：子育て世帯はスマートホンを活用している世代であるため、アンケートの回答期間中、何回かアプリを利用して情報発信を行う。回収の具合によっては、直接、幼稚園や保育園から通知でPRしてもらう事も考えている。

委員長：アプリでは、回答を依頼をするのか。アプリで回答ができるのか。

事務局：今回は、アプリでは回答を依頼する。

委員：スマートホンで回答できる方が、隙間時間に回答できるのでとても良いと思う。

委員：P7の「近所（30分）」とあるが、徒歩か車か。車で30分はかなり遠くまで行けると思うが、それを近所と考えるのか。

事務局：このアンケートでは車で30分を想定しているため、「自動車で」という表記を加える。

委員：P22の習い事について、最近はスポーツ少年団などは加入率が低く、スポーツクラブやピアノなどの教室も多い。広くとらえられるような「スポーツ」「音楽」という表記の方が良いのではないか。

事務局：仰るとおり、広くとらえられるよう表記を変える。

委員：児童クラブの調査について、低学年に向けて4年生以降の意向を聞くという趣旨は分かるが、高学年の親に向けても意見を聞いてもらえる場を設けてもらうことができないか。どう運営していくかは高学年の意見も必要ではないか。低学年の親は、自分の子が高学年になった時のケースを想定しづらいと思う。高学年の保護者に向けても意見を聴取できる機会があるとよいと思う。

事務局：高学年の保護者の方も色々な意見があると思うので、どんなやり方が良いか検討していく。

委員：意見になるが、児童クラブのハード面の傾向は分かってくるが、指導内容についても検討する必要があると思う。毎日2～3時間いる場所なので、どう育てていくかを考えていくことが必要だと思う。収容人数等、施設ごとに違うとは思いますが、指導員同士が話し合い、大きな方向性を持つことも良いと思う。毎日2～3時間いるという事は、そこで子どもが成長することが多いので、有効に使ってほしいと感じる。

委員長：保育所はこれまでも、保育士を養成し、保育指導要領もあり、そうして運営してきたが、放課後児童クラブはその面で弱いかもしれない。小学校6年生まで拡充していくのかという部分においては、子どもも10歳を過ぎると自立し変わってくる。自分の子もそうであったが、「ひとりで留守番できる」という発言があった。保護者としては大人と一緒にいると安心に感じるのだが、子どもには子どもの事情があると感じた。保育所の時と同じようにただ預かるだけで良いのか、2～3時間であっても毎日となると大きな成長の時間である。今後、より検討の余地があると思う。

委員長：せっかくの機会なので、このあたりの事についてご意見いただけるか。

委員：今は小学校3年生以上も児童クラブに入会できるようになったが、10歳を過ぎると子どもも変わり、児童クラブを嫌がるそぶりもある。子どもの中で社会性も出てくるため、児童クラブに行っていると友達と放課後の約束ができないという子どもなりのつらさもある。「親が思っ

いるほど子どもではないから任せてほしい」という気持ちも芽生えてくる。子どもなりに考えていることがある。アンケートでは親の気持ちが大きくなってしまったと感じた。児童クラブの指導員は、親の気持ちも子どもの気持ちも分かる立場にあり、かつ、学校とのやり取りもしながら頑張っている。

委員：子どもを預けて母の仕事の機会を増やそうという大きなテーマがあり、受け入れる年代も幅広くなっていくのでみんなで労働しようという国の方針であるので、それはそれで良いと思う。その受け入れる2～3時間の間、子どもに何をさせるのか、という事だと思うが、最近感じているのは、時代として、様々なことを他人に任せすぎてしまっているように感じる。ベースに、「うちの子はこういうふうに育てたい」というのがあって、親が子どもに、「あなたはこの時間これをしなさいよ」という意識も必要。親子、家庭がきちんとコアな部分を作って、そこを、行政なり児童クラブなり周りが補完していくべきではないか。とりあえず預けて、あと何をするかは人任せというのは少し怖いと感じる。

委員長：ありがとうございます。本日の意見を調査票に活かし、有意義なものにしてほしい。

事務局：幅広い意見をいただいた。関係課と調整し、次期のプランに活かしたい。

(11時30分議事終了)